



学会彙報 , 奥付

雑誌名	漢文學會々報
巻	19
ページ	32-37
発行年	1960-06-26
URL	http://hdl.handle.net/2241/00148389

問」の兩篇であり、他の一卷は東洋文庫蔵で「衛靈公と季氏」の兩篇である。これは中原師秀の文永五年（一二六八）書寫した家本である。高山寺本は、京都梅尾高山寺蔵の二卷であつて、第一卷は「述而と泰伯」の兩篇、第二卷は「衛靈公と季氏」の二篇である。そしてこれは、中原師有の嘉元元年（一二三〇）書寫した家本である。そこで中原家本は殘卷四卷八篇であるがその中、重複篇があるので、三卷六篇となる。さて、これらの殘書によつて、中原家各家本の經注文・訓說などの共通点乃至相違点の考察により、所謂中原家論語家学を究明し、併せて宗重本・宝左庵本・徳治本・元応本などの性格を検討し、その系統を明らかにしようと思う。

七、無と和との問題

福井大学 寺岡竜含

「無とは何であるかという問題」と「和とは何であるかという問題」とは、哲学としての永遠の課題であらう。無と和とをそれぞれ探索し、概念化し表現し得たと考えた時には、恐らく無でも和でもなくなるであらう。

しかし、ここにおいては先覚が努力したあとをたどりながら、無の字源と和の字源とを考究し、無の用法と和の用法とを探索する、そうして無の問題と和の問題とを取扱い、結局妄言するならば無は体であり和は情であることに想到し、できうる限り真実に近いものを論究してみたい。

○昭和三十四年度漢文学会総会

〔漢文教育研究会〕

六月廿日

於都立小山台高校

一、研究授業

午前十時半～十二時半 青木木菟哉氏

一、研究會

十二時半～十二時半 司会 今井宇三郎氏

(イ) 開会の辞

小島委員

(ロ) 当番校挨拶

上原好一校長

(ハ) 教授者反省

舞田正達主任

(ニ) 討論

青木木菟哉氏

一、討議會

午後一時半～三時四十分 司会 牛島徳次氏

(イ) 問題提起

1、略体漢字の問題について

志賀 一朗氏

2、〔全国高等学校協議会〕における漢文の教育課程の問題

小島 政雄氏
鎌田 正氏

(ロ) 討論

(ハ) 閉会の辞

内野委員長

〔研究発表会〕

六月廿一日

於教育大学

一、江南義疏家と王弼佚注

高松高校 藤原 高男氏

一、唐代小説に含まれる詩について

新潟大学 内山 知也氏

一、新訓点法の一考察

大泉高校 志賀 一朗氏

一、司馬相如・楊雄・班固に流れる一流文学意識

教育大学 鈴木 修次氏

一、魏晉南北朝における尊降服制について

香川大学 藤川 正数氏

一、中原家論語家学とその系統本 東京学芸大学 新美 保秀氏

一、無と和の問題 福井大学 寺岡 竜含氏

〔総 会〕

一、開会の辞 牛島委員

一、挨拶 内野委員長

一、報告並に議事

1、議長選出 寺岡竜含氏

2、各部報告

(イ) 庶務報告 今井委員

(ロ) 研究一報告 小島委員

(ハ) 研究二報告 牛島委員

3、議 事

(イ) 昭和三十三年度収支決算

兼昭和三十四年度予算

(ロ) 来年度会員名簿印刷の件

(ハ) 高等学校教育課程国語科改訂に関する意見 鎌田委員

○昭和三十四年度例会

六月六日

研究会

比興論の展開と象徴詩

横山伊勢雄氏

十二月五日

雑誌会

阿部吉雄氏「宋明の倫理思想」〔昭三四・二〕(世界倫理思想史双書)

木南卓一氏「北宋思想界の動向」(漢學九・昭三三・一〇)

今井宇三郎氏

研究会 新美 保彦氏

我国古伝論語諸古写書入れ中より発見せられた

鄭玄論語「魯誦從古」例の新資料

○昭和三十五年度漢文関係講義

(一) 一般教育科目 漢文講読(思想)

内野 教授 (文学)

小林 教授 (文学)

(二) 外国語 中国語一、(文法)

牛島 助教授 (読本)

北浦 講師 二、(作文)

長谷川 講師 二、(公話)

陳 講師 二、(公話)

専門科目 中国思想史

内野 教授 演習(論語集注)

小林 教授 (中庸)

鎌田 教授 (老莊)

中国哲学概論並特講

中国思想史漢習(左伝)

日本漢文学演習(経国集)

牛島 助教授

中国言語学漢習(漢語)

〃 (龍澤溝)

〃 中国言語学講義ならびに講読

〃 (文言語法)

鈴木 助教授

中国文学概論(六朝)

〃 中国文学演習(白樂天)

〃 (花間集)

河野 教授

中国言語学特講

陳 講師

中国言語学演習

小野 〃 日本漢文学史

前野 〃 中国文学史(宋以後)

水沢 〃 史記講読

○昭和三十四年度漢文関係講義

(一) 一般教育科目

小林 教授

漢文学講読(思想)

鎌田 教授

〃 (文学)

(二) 一般語学

牛島 助教授

中国語一(文法・作文)

〃 中国語一(講読)

〃 中国語二(講読)

北浦 講師

中国語一(講読)

〃 中国語一(講読)

陳 講師

中国語 (公託)

(三) 専門科目

小林 教授

中国思想史

小林 教授

中国哲学演習
(論語集注)

内野 教授

中国哲学概論並特講

〃

中国哲学演習(尚書)

〃

中国哲学演習(荀子)

鎌田 教授

日本漢文学演習

〃

中国哲学演習
(孟子集注)

河野 教授

中国言語学概論

牛島 助教授

中国言語学特講

鈴木 助教授

中国文学概論

〃

中国文学演習

〃

中国文学史
(前期陶淵明
後期謝靈運)

陳 講師

中国文学講読
(京本通俗小説)

水沢 講師

中国言語学演習

今村 講師

史記講読

小野 講師

中国文学史

〃

日本漢文学史

中国関係図書専門店

山本書店

東京都千代田区神保町二の七

(電話)

(331)

九〇

三八

三四

七七

振替 東京 五九九五〇

中国図書・中国関係書

専門取扱

株式会社 大安

東京都千代田区神田神保町二ノ一四

(331)

一六

一二

・五六

四〇

振替 東京 一九二六一

極東書店

本社 東京都千代田区神田神保町二の二

(振替)

東京一〇〇〇〇九(電)

(331)

六四

三二

七六一七

関西出張所

京都市上京区河原町通り荒神口下ル

(振替)

京都五八二九

(電)

(3)

七九九二

和漢古書籍売買

松雲堂

東京都千代田区神保町三ノ一

電話

(331)

六四

九

八

東京文理科大学 文学博士 諸橋 轍 次 著

大漢和辞典

全十三冊

古今の典籍万巻

を網羅した不朽

の大著遂に完成

結集 完版 出版 巻出 募約 記念 全記

6 月末日申込締切迫る

B 5・総計 15,000 頁・各巻 1,100 頁

定価・各巻 特製 6,000 円
特製 5,000 円

分割払・一時払・特価その他御購
入方法については御遠慮なく書店
へ御相談下さい

三十五年の歳月を費し、資料の蒐集・文字語彙の採択・編纂などすべて著者一人が立案した空前絶後の大漢和辞典である。親文字数約四九、〇〇〇字、語彙・熟語数約五二六、〇〇〇語、挿絵図数約二、八〇〇個を取め、印刷は本辞典のために特別に作った細明朝体の写真植字により、別ずきの用紙を用いた。製本は美麗、堅牢。東洋文化研究には必備の書であり、子々孫々におくる不朽の大文化財である。

△内容見本進呈▽

東京都千代田区神田錦町三ノ二四 大修館書店

文学博士 福井康順著

最近刊 東洋思想史研究 道教の基礎的研究

影瑣川眞氏仿宋本（返点付）

道論 語集 注

水世婦・中山時子編著

生 活 與 會 話

—趣味と生活の中国語学習書—

標準 中国語 北浦藤郎・加賀美嘉富著
大山正春・中山時子著

加賀美嘉富著

注音 中国語中級

東京都文京区湯島二の一湯島聖堂構内

鉄書籍文物流通会

電話 小石川 (921) 四六〇六
振替 東京 二一九九六番

A 5 版 入上製 二二〇〇円
A 5 版 箱入上製 四四〇〇円
B 6 版 並製 一〇〇〇円
A 5 版 並製 六五円

一函二本 二四〇円

菊版 凡一五八頁
定価 三四〇円

B 6 版 一五七頁
定価 二五〇円

B 6 版
定価 一八〇円

藤川正数著

魏晉時代 喪服礼の研究

堤留吉著

白 楽 天 —生活と文学—

内野熊一郎編

中国思想 文学史

竹田復編

初歩の論語

東京都新宿区敬文社 電話 (三三〇) 三八二八
市谷妙土原町アヒバ 振替 東京 一四八八八

○東京教育大学漢文学会々則

- 一、本会は東京教育大学漢文学会と称し、事務所を東京教育大学漢文学研究室に置く。
- 二、本会は漢文学及び漢文教育の研究と普及とを図るのが目的である。
- 三、本会の会員は左の通りである。
 - 1 東京教育大学漢文学及び東京文理科大学、東京高等師範学校の漢文学関係教官（退官者を含む）
 - 2 東京教育大学漢文学専攻学生及び卒業生、並に東京文理科大学漢文学専攻卒業生
 - 3 其の他入会を希望する者
- 四、本会の主な事業は左の通りである。
 - 1 総会 年一回
 - 2 例会 年約七回
 - 3 会報及び会員名簿の発行
 - 4 其の他必要な事項
- 五、本会の役員は左の通りである。

委員長	一名
委員	若干名
- 六、委員長は本会を代表し委員と共に運営に当る。
委員は委員会を組織し会の研究会計庶務を分担する。
- 七、委員長は委員の互選による。
委員は東京教育大学学生中から五名、其の他から若干名（一般会員より四名、及び東京教育大学助手）を会員の互選（学生委員は学生の互選）によつて選挙する。その任期は二年（学生委員は一年）とする。但し重任は差し支えない。
- 八、会員は会費年額四百円、（但し学生は半額）を納める。
- 九、本会会則の変更は委員会の一審議を経て総会出席者の過半数の承認を得なければならない。

後 記

○昨年に引き続き、今年も会報を発行することのできたのは、会員諸氏の各面よりする御協力の賜物である。今後益々学会発展のため御協力をお願いしたい。

○今年は総会での意向もあって、高松市で印刷することにした。これについては、高松在住の会員、倉田貞美・藤川正数・小林久磨・藤原高男の各氏に編集校正等の労を煩わした。こゝに深甚の謝意を表し置きます。

（牛島・安居）

漢文学会々報第十九号

昭和三十五年六月二十日印刷
昭和三十五年六月廿六日発行

（非売品）

編輯者

東京教育大学 牛 島 徳 次
漢文学会 安 居 香 山

印刷所

香川県高松市観光通一ノ一〇二五
株式会社 牟禮印刷所

発行所

東京都文京区大塚窪町二四
東京教育大学漢文学会
振替東京四七六〇〇番